

文化フォーラム春日井開館記念事業

第2回愛環音楽祭

オルロフスキー邸へようこそ

ヨハン・シュトラウス2世没後101年記念
「新世紀のこうもりは春日井に飛ぶ」



2000年 3月5日(日)

会場: 春日井市民会館

主催: 愛環音楽連盟・春日井市・中日新聞社

後援: 愛知県教育委員会・春日井市教育委員会・瀬戸市文化協会・愛知環状鉄道株式会社



ごあいさつ

春日井市長
鶴 飼 一 郎

本日は、「第2回愛環音楽祭」によるご
そお越しくございました。

愛環音楽連盟によるこの音楽祭は、昨年
度に第1回を瀬戸市において開催し好評を
博しました。第2回となる今回は、素晴ら
しい演奏を、わがまち春日井において皆様
とともに鑑賞できるとあって、大変楽し
みに又うれしく思っております。

愛環音楽連盟は、平成9年、愛知環状鉄
道沿線の岡崎、豊田、瀬戸、春日井各市の
アマチュアオーケストラと合唱団によって
結成されました。以来、愛環「千人の第九」
(愛知県芸術劇場大ホール)や第1回市民オ
ケ・フェスティバル(春日井市民会館)の開
催など意欲的な活動を続けておられます。

個々に活動されている団体が一つの音楽
を造り上げるまでには、様々なご苦勞があ
ることと思いますが、これだけの規模の演
奏会にまとめあげる市民の皆さんの力に
は、大きな可能性を感じます。また、音楽
を通じて、地域を越えた交流が深められ
ることも大変喜ばしいことです。

今後も、市民の皆さんの手によって、こ
うした積極的な活動を続けていただき、音
楽文化の裾野がさらに広がることを願っ
てやみません。

最後になりましたが、今日に至るまでの、
加盟7団体の皆さんを始め、関係の皆さん
の多大なる努力と音楽への情熱に心から敬
意を表します。

今回は、指揮者にウィーンからアレクサ
ンダー・ドゥルカー氏をお迎えし、ヨハ
ン・シュトラウス2世の没後101年記念と
題して数々の名曲を用意し、聴きごたえの
ある内容となっております。優雅なウィン
ナーワルツの調べをどうぞごゆっくりお楽
しみください。



ごあいさつとお礼

愛環音楽連盟会長
若 月 剛 一

ようこそ第2回愛環音楽祭へおいでくだ
さいました。本日お集まりのみなさまをは
じめ、たくさんの方々のご厚意とご好意で
このような素晴らしい音楽会を開くことが
できました。本当にありがとうございます。
心からお礼申し上げます。

まず、文化フォーラム春日井の開館記念
事業としてご共催下さいました春日井市
のみなさま。また、私たちの趣旨にご賛同
下さり、紹介記事やご助言など多大のご支
援をいただきました中日新聞社の春日井支
局のみなさま。そして、このヨハン・シュ
トラウスの喜歌劇《こうもり》は「シャン
パン賛歌」でもあります。メルシャン・ウ
ィン株式会社から、世界最高のポメリー
社の高級シャンパンをたくさんご寄贈い
ただきました。さらに、四都市の多くの企
業のみなさまとたくさんの音楽愛好家の
みなさまから数多くのご協賛をいただき
ました。

今回の愛環音楽祭は、一昨年の瀬戸市
での第一回の成功を受けてのものです。こ
の地方でいまもっともご活躍中のソリス
トのみなさまを総勢十名、ゲストとしてお
招きすることができました。指揮は、おなじ
みのアレキサンダー・ドゥルカーさんに
再びウィーンから春日井へおいでいただき
ました。ドゥルカーさんは、ウィーンでも
名うての《こうもり》振りです。愛環音
楽連盟の合唱団とオーケストラから、これ
までになく素晴らしい音楽を産み出して
下さることでしょう。

それでは、みなさまのご家族やお仲間
やお知り合いの方たちも加わった、愛環
音楽連盟の熱演で、ヨハン・シュトラウ
スの名曲の数々をごゆっくりお楽しみ下
さい。

プログラム

ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 「こうもり」序曲

ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 「こうもり」第2幕導入部（合唱）

ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 「こうもり」第2幕クーブレ
（僕はお客を招くのが好きで）

メゾソプラノ独唱 オルロフスキー 夏目 久子

ベートーベン作曲 「ロマンス2番」 ヴァイオリン独奏 原 沙登子

ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 「こうもり」第2幕チャルダッシュ
（故郷の調べは、あこがれを呼びさまし）

ソプラノ独唱 ロザリンデ 荻野砂和子

ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 「こうもり」第2幕フィナーレ（合唱）

独唱 アデーレ 飯田実千代・ロザリンデ 荻野砂和子・イーダ 長屋 恵
オルロフスキー 夏目 久子・アイゼンシュタイン 井原 義則
フランク 滝沢 博・ファルケ 牛島 正隆

————— 「休 憩」 —————

ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 ポルカ「雷鳴と稲妻」

ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 「春の声」 ソプラノ独唱 飯田実千代

ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 「美しく青きドナウ」（合唱）

独唱 ソプラノ 長屋 恵・アルト 鳥居 玲子・テノール 井原 義則

ドニゼッティ作曲 「愛の妙薬」からアリア「人知れぬ涙」

テノール独唱 小山陽二郎

ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 「皇帝円舞曲」

ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 「こうもり」第3幕クーブレ
（田舎娘に扮するときには、短い衣裳を着けて）

ソプラノ独唱 アデーレ 長屋 恵
重唱 イーダ 荻野砂和子・フランク 滝沢 博

ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 「こうもり」第3幕フィナーレ（合唱）

独唱 アデーレ 飯田実千代・ロザリンデ 荻野砂和子・イーダ 長屋 恵
オルロフスキー 夏目 久子・アイゼンシュタイン 井原 義則
アルフレッド 小山陽二郎・フランク 滝沢 博・ファルケ 牛島 正隆

特別ゲスト 鶴飼 一郎（春日井市長）

指揮者 アレクサンダー・ドゥルカー
司 会 都築 正道
オーケストラ 愛環音楽連盟加盟オーケストラ
合 唱 愛環音楽連盟加盟合唱団

（楽譜協力：トミタ・ミュージックライブラリー）

出演者紹介



指揮者
アレクサンダー・ドゥルカー

1992年ウィーン音楽大学大学院卒。指揮をカール・エスターライヒャーに師事。クラーゲンフルトの準音楽監督を勤め、現在ウィーンフォルクスオーパーを中心に活躍中。1997年12月春日井第九実行委員会の招聘により初来日。交響曲や協奏曲の指揮のほかに、「フィデリオ」「リゴレット」「セヴィリアの理髪師」「ボエーム」等オペラのレパートリーも多く、昨年1月にはウィーン室内歌劇団と共に来日して、本場の「こうもり」を上演、好評を博した。



司会・構成・演出
都築 正道

名古屋大学文学部美学卒。関西学院大学大学院博士課程修了。「ワグナー研究」で文学博士。現在中部大学教授。春日井市交響楽団音楽監督。愛環音楽連盟理事長。朝日新聞音楽評担当。文化フォーラム春日井企画運営アドバイザー。春日井市文化懇話会会長。「オペラ・トーク」「ハイビジョン・オペラ・シアター」等、講演会やTV・雑誌でオペラ解説。「名古屋オペラ・サロン」主宰。主著「楽劇：音と言葉の美学」（音楽之友社）。



コンサートマスター・練習指揮
加藤 莞二

ヴァイオリンを尾島綾子・東儀幸各氏に師事。在学中より指揮を学び、卒業後関西二期会等で朝比奈隆氏他の副指揮を務めた。大阪音楽大学でのオペラ指揮を皮切りに、各地でオーケストラやオペラを指揮。特にアマチュアオーケストラのトレーニングは好評。ルーマニアの「第2回ディヌ・ニコレスク国際指揮者コンクール」入賞及び審査員特別賞受賞。6年後同国でオペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」他を客演指揮し、海外でも評判を得る。伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団監督。クレフ室内管弦楽団主宰。



合唱指揮
吉川 朗

愛知教育大学音楽科卒。同大学院（作曲）修了。あけぼの合唱団、大高北PTAコーラスを始め、名古屋オペラ協会、愛知県文化振興事業団などのオペラの正指揮者・副指揮者を務める。名古屋芸術大学音楽部オペラ研究室実技補助員。大垣女子短期大学非常勤講師。

ピアノ伴奏 竹内 理恵



ヴァイオリン 原 沙登子

名古屋市立菊里高校音楽科卒。フランス、クールシュベールのサマーセミナーにおいて、ローラン・コルシア、デヴィー・エルリー各氏のレッスンを受け、ディプロマ取得。春日井市交響楽団には中学生から参加。現在コンサート・ミストレスも務める。これまでに黒崎尚子・石田なをみ・森下陽子の各氏に師事。愛知県立芸術大学音楽学部器楽科2年在学中。岡山芳子氏に師事。



ソプラノ 飯田美千代

京都大学教育学部卒。声楽を故引田リエ子、スザンナ・ギオネ、マルタ・ランティエリ等に師事。日本イタリア声楽コンクールでの金賞を始め、数多くの大賞や優秀賞を受賞。「ヘンデルとグレーテル」のグレーテル役でデビュー以来、「椿姫」「ボエーム」「ランメルモールのルチア」「リゴレット」など、オペラの主役を演じている。かたわら日本各地・イタリア・オーストリア・ドイツで数多くのコンサートに出演。コンサート・グループ「花の詩」会員。



ソプラノ 荻野砂和子

東京芸術大学音楽科卒。1985年ブリテン「戦争レクイエム」でソロ活動を開始。多くの合唱曲のソリストとして、また「こうもり」「天国と地獄」「フィガロの結婚」等数多くのオペラで主役を歌い、リサイタルも10回を超える。宗教曲や現代音楽にも多くのレパートリーを持ち、平成8年近代スペイン歌曲とヴィラ＝ロボスを取り上げたりサイタルで名古屋市民芸術祭審査員特別賞を受賞。現在明和高校音楽科・愛知県立芸術大学・名古屋音楽大学非常勤講師。



ソプラノ 長屋 恵

名古屋音楽大学卒。同大学院修了。オペラ「ねじの回転」や、オペレッタ「こうもり」新作オペレッタ「のはらひめ」山田耕作の遺作オペラ「香妃」などに出演。シューベルトのミサ曲連続演奏会で、全6曲のソリストを務める。1996年イタリアで指揮者オッタヴィオ・テレニ氏の講演会に参加。現地でコンサートのほか、サルザーナ市立歌劇場で、オペラ「リゴレット」のジェルダ役で出演。近藤真理子・福田富子・戸田敏子各氏に師事。名古屋二期会準会員。



メゾ・ソプラノ 鳥居 玲子

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒。桑原賞を得て同大学院へ進む。ソレイユ新人オーディション優秀賞受賞。「ヘンゼルとグレーテル」や、「ねじの回転」などのオペラ、ベートーベンの第九交響曲のアルトソロなど、数少ない優れたメゾ・ソプラノとして活躍。近藤恵子、藤井多恵子、クラウス・オッカー、ネッダ・カセイ各氏に師事。現在名古屋二期会準会員。アメリカの歌研究会、コンサート・グループ「花の詩」各会員。碧南混声合唱団指揮者。



メゾ・ソプラノ 夏目 久子

同志社女子大学音楽科声楽専攻卒。関西と名古屋二期会・大阪喜歌劇楽友協会・名古屋市文化振興事業団等の「こうもり」「照手と小栗」「香妃」「天国と地獄」「レ・ミゼラブル」など、数多くのオペラ・ミュージカルに出演したほか、各種リサイタルに出演。海外ではドイツ・チェコ・オーストリア・シンガポールで主に日本歌曲を紹介。石村雅子・芳野靖夫・伊藤和子・関定子・藤井多恵子各氏に師事。名古屋二期会会員。紫苑会・山査子の会主幹。



テノール 井原 義則

愛知県立芸術大学音楽部声楽科卒。同大学院修了。ウィーン・ゲーテアニッシェス・コンセルヴァトリウム卒。洞谷吉男、小島琢磨、神田詩朗、故木下武久、中田淳子、ヒルデ・レッセル＝マイダン、児井 恵各氏に師事。名古屋市新進芸術家海外派遣員。ドボルザーク「レクイエム」でデビュー後、ミサ曲や合唱曲のソロのほか、数々のオペラ・オペレッタの主役を務め、1985年「ウェストサイド物語」のトニー役で名古屋芸術創造賞受賞。現在南山高校・中学校教諭。ピッコロオペラメンバー。



テノール 小山陽二郎

愛知県立芸術大学卒。同大学院修了。愛知県新進芸術家海外研修助成でミラノに留学。カシナ・リリカ国際声楽コンクール第2位、ブタベスト国際声楽コンクール第2位、R・ブロージ歌曲コンクール第2位など、数多く入賞。1995年「愛の妙薬」でオペラ・デビュー後、イタリアを中心に「セヴィリアの理髪師」「リゴレット」など、数多くのオペラに出演。その後ハンガリー国立歌劇場専属歌手となり、昨年の春日井市民第九演奏会でソリストを務めた。藤原歌劇団準会員。



バリトン 牛島 正隆

愛知県立芸術大学音楽学部卒。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。ドイツ、ミュンヘン国立音楽大学大学院修了。滞独中は教会で宗教曲のソリストとして活躍。帰国後はシューマン・シューベルト・マーラー等の歌曲リサイタルを開く。現在金城学院中学・高校教諭。日本フーゴ・ヴォルフ協会会員。



バリトン 滝沢 博

愛知県立芸術大学音楽学部卒。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。フリーの声楽家として、名古屋を中心にオペラやコンサートの合唱指揮者として活躍。「魔笛」「夕鶴」「天竺物語」「フィガロの結婚」「カルメン」フォークオペラ「地獄八景」など数多くのオペラや、オペレッタに出演。「マタイ受難曲」「メサイヤ」「森の歌」「第九交響曲」等、宗教曲・合唱曲のソリストとして出演。春日井第九合唱団や銀の鈴合唱団（春日井）など各種合唱団の指導にもあたる。

愛環音楽連盟紹介



愛知環状鉄道によって結ばれた4都市（岡崎市・豊田市・瀬戸市・春日井市）で活躍する岡崎フィルハーモニー管弦楽団・岡崎「第九」をうたう会・豊田楽友協会・豊田

市民合唱団・瀬戸第九合唱団・春日井市交響楽団・春日井第九合唱団の7団体が、1997年の春に「愛環音楽連盟」を設立しました。音楽好きが大勢集まって、仲良く・楽しく・元気良く、4都市の音楽ファンのために大きな演奏会を開こうというのです。

同年秋、愛知県芸術劇場大ホールでレールを走り始めました。「愛環音楽連盟創立記念：千人の第九演奏会」を皮切りに、私たちは「人類愛」と「音楽への愛」で結ばれた「愛の環」を大切にしながら、1998年には「第1回愛環音楽祭」を瀬戸市で開き、1999年には「市民オーケストラ・フェスタ in Kasugai」を春日井市で開催しました。2000年の9月3日には「第2回愛環千人の第九」を愛知県芸術劇場大ホールで演奏します。ぜひお出かけ下さい。

加盟団体紹介

■岡崎フィルハーモニー管弦楽団

通称〈岡フィル〉は1972年の創立で、発足当時は10数名の団員も、その後仲間が増え、10代から50代まで総勢60余名の市民オーケストラに成長しました。年2回の自主公演（定期演奏会・ポピュラーコンサート）に加え、岡崎市内を中心にして種々の催しに参加しています。岡フィルの団員はひたすら音楽が大好きな人間の集まりで、家庭的な雰囲気の中で練習しています。

■岡崎「第九」をうたう会

1983年6月岡崎文化協会の呼び掛けで発足。同年12月に、指揮外山雄三氏、管弦楽名古屋フィルハーモニー交響楽団により、第1回岡崎第九演奏会を開催しました。

以後、毎年演奏会を行い17回を数えます。本年も6月に発会し、12月16日（土）に指揮関谷弘志氏、管弦楽名古屋フィルハーモニー交響楽団で演奏会を予定しています。

毎年、初心者3分の1を含む約200人の会員が参加し、「明るく、楽しく、しっかりと」をモットーに、質の高い練習を重ねています。

■豊田楽友協会

豊田楽友協会は、豊田フィルハーモニー管弦楽団と、豊田市吹奏楽団とで構成する音楽団体です。豊田フィルハーモニー管弦楽団は、「音楽のある街」を目指して活動を開始して12年になりますが、実人員40人程のこじんまりした団です。忙しい仕事の合間を縫っての毎日曜日の練習は大変ですが、そこに参加する人にとっては、宝石のような貴重な時間でもあり、みんな楽しんでやっています。

6月3日（土）に豊田市コンサートホールで定演を行います。また、ただ今団員を募集（特に弦楽器）していません。詳しくはホームページをご覧ください。

■豊田市民合唱団

1981年から毎年「第九交響曲演奏会」の運営と演奏に関わってきた「第九を歌う市民の集い」を発展させて、1985年1月に豊田市民合唱団として発足しました。

これまでに「第九演奏会」を13回、「定期演奏会」を14回開催したほか、「豊田ジョイントコンサート」にも積極

的に参加しております。「豊田合唱連盟」「愛環音楽連盟」の一員としての活動のほか、本年は12月3日に豊田市コンサートホールで、モーツァルトの「レクイエム」を中心に、「第15回記念定期演奏会」を開催する予定です。

■瀬戸第九合唱団

1984年（昭和59年）に結成された「瀬戸第九をうたう会」は、完成2年後の瀬戸文化センター文化ホールで、同年12月8日、外山雄三氏の指揮のもと、「歡喜のうた」で発足しました。以来、瀬戸の音楽文化の中心的な役割を担い続けて17年、「瀬戸第九」は名実ともすっかり瀬戸市民の間に定着しました。久し振り、手作りの「第九」という市民、関係者の声をバックに、来年の「第九」も視野にいれ、日常の練習活動に会員相互の交流を重視して、仲良く・楽しく・元気よく続けていきたいと願っています。

■春日井市交響楽団

愛称はカポ。1990年11月に春日井市初のアマチュア・オーケストラとして誕生しました。翌年、創立記念演奏会を開き、以降毎年7月に定期演奏会、12月に春日井市民第九演奏会を春日井市民会館で開催、多くの市民を集めています。定演は、ここ数年指揮を竹本泰蔵先生にお願いし、楽しくも厳しい指導の基に練習に励んできました。さて、今回の愛環音楽祭は、ウィーンで活躍中のドゥルカーさんを招いてのワルツ集です。音楽性豊かな3都市のオケと、4都市の合唱団と共に、楽しい音楽祭にしたいと思います。

■春日井第九合唱団

平成5年の春日井市制50周年記念「第九演奏会」に出演した春日井市民を中心に結成された合唱団。以降、毎年12月に開かれる春日井市民第九演奏会に、200名の大合唱団として出演、昨年12月には第7回演奏会を好評裡に終了しました。創立以来、ベテランの指導者吉川朗先生の熱心な指導に加えて、団長以下優れたスタッフの活躍が、経験豊かな団員を勇気付け、心のこもった質の高い演奏を生み続けています。愛環音楽連盟への加入が音楽の幅を広げ、春日井市の音楽文化の中心となるべく努力しています。

オルロフスキー邸へようこそ 新世紀のこうもりは春日井に飛ぶ

喜歌劇《こうもり》のお話

ある年の仮面舞踏会でのことです。お金持ちのアイゼンシュタインは、こうもりに変装したファルケ博士をしたたかに酔わせて、市場の中に置き去りにしました。翌朝、目を覚ましたファルケが、こうもりの衣装のままで家に急ぐ姿を見て、街中の人が大笑いしました。それ以後、彼は「こうもり博士」と嬉しくない名前ではばれることになりました。そのこうもり博士自らの復讐物語が、この「こうもり」です。オペラ王シュトラウスが、わずか42日間で書き上げました。さて、音楽です。有名な「こうもり序曲」は、曲中から美しいメロディを花のように摘んで聴かせる「ポプリ序曲」です。今夕のお話で、「このメロディはこのシーンのものだったのか」と改めてお気づきになることでしょう。刑務所へ行くアイゼンシュタインに「お別れするのは悲しいわ」といいながら、今夜の舞踏会に思いを馳せて浮き浮きする三人の様子や、終幕でアイゼンシュタインが怒り出すシーンも、この序曲が先取りしています。それに、なんといっても見逃せないのが大舞踏会です。「ヨハン・シュトラウスの名作ワルツやポルカ」が次から次へと演奏されます。美しい舞曲に滑稽な台詞、涙を誘う歌に陽気な合唱、洒落た歌に色っぽい仕草—オペレッタ《こうもり》の魅力は無類です。

口上

さてもみなさま方には、ようこそオルロフスキー邸へおいで下さいました。これから私どもが演じますのは、ヨハンはシュトラウス2世の作りました喜歌劇《こうもり》のお話。それも、みなさまがおいでになったときにご覧いただきました、あの銀色に輝きます知の殿堂、「文化フォーラム春日井」開館記念でもあり、また、ヨハン氏の没後101年を記念いたします大舞台でございます。時まさにミレニアムは2000年、3月5

日は赤口でございます。ところはまさに文化の都春日井は市民会館の舞台に設けられました大富豪オルロフスキー公爵の舞踏会場でございます。

開幕！ 開幕！

それでは、みなさまを歓迎いたしまして陽気な呼び込みの音楽、《こうもり》【序曲】から始めましょう。指揮は、本日のためにウィーンからわざわざやって参りましたアレクサンダーはドゥルカー氏であります。氏は、以前、春日井市民第九演奏会で指揮をして、ブラボーの絶叫と万雷の拍手をほしいままにした名マエストロでございます。さて、こちらはオルロフスキー公爵。お金も時間もたっぷりあって、人生に退屈している彼に残されましたものは、なによりも大好きなシャンペンと宴会と悪ふざけだけでございます。本日もまた紳士淑女を招いての大舞踏会が開かれます。愛環音楽連盟の160名の大会唱が【開幕の合唱】を歌います。

歓迎の歌

ご機嫌伺い役のファルケ博士が、「さあ、とっておきのお笑いをお見せしますよ」とオルロフスキーのご機嫌をとっておりますところへ、次々とお客さまが登場いたします。オルロフスキー公爵は、「私はお客を招くのが大好きだ」と歓迎の歌を歌います。では、夏目久子さんのズボン役で【オルロフスキーのクーブレ】をお聞き下さい。

鶴飼市長のごあいさつ

みなさまには、まず最初に本日の特別ゲストをご紹介いたしましょう。春日井市長の鶴飼一郎さまです。鶴飼市長自ら、文化フォーラム春日井の開館に際しての市民のみなさまのご協力とご理解を謝してお礼のごあいさつにおいでになりました。そして、私たちからのお祝いと感謝の気持として、愛環音楽連盟会長の若月剛一が市長に特製の大瓶シャンパンをお贈りいたします。シャンパンは、むろん世界一のボメリー社製です。

若者のロマンス

次にやって参りましたのは、若きヴァイオリニストの原沙登子さんです。いまは愛知県立芸大の2年生ですが、中学のときから春日井市交響楽団で第1ヴァイオリンを奏きつづけているオケの華です。いまはコンサート・ミストレスをつとめています。まだ未成年ですからシャンパンは飲めませんが、なにかに奏いていただきましょう。では、【ベートーヴェンのロマンス・ヘ長調】をお聴き下さい。

偽のハンガリー公爵夫人

そこへ、大富豪のアイゼンシュタインの妻ロザリンデが、仮面で顔を隠し、ハンガリーの伯爵夫人となって現れました。みんなは「ハンガリーの貴族だなんて嘘でしょう」とからかうので、彼女はハンガリーでももっとも有名な民俗舞曲を歌って踊って見せます。それでは荻野砂和子さんの歌で「チャルダッシュ」をお聴き下さい【故郷の調べがきこえる】。その巧みな歌い方にみんなはころりとだまされます。お待ちかねの宴会が始まりました。「さあ、シャンパンで乾杯しよう」とオルロフスキーとアデーレとアイゼンシュタインが次々とシャンパンを讃えて歌います。アデーレは長屋恵さん、アイゼンシュタインは井原義則さんです【乾杯の歌】。酔ったファルケ博士が、「みんなで友情を誓い、お互いにキスしようではないか」と提案します。ファルケ役の牛島正隆さんがリードして歌います【兄弟姉妹になろう】。遅れてやってきた刑務所長のフランクも、彼の囚人とも知らぬまま、アイゼンシュタインと意気投合します。フランク役の滝沢博さんとアイゼンシュタイン役の井原義則さんの滑稽なやりとりが始まります。踊ったり、歌ったりしていると、朝を告げる鐘がきこえてきます。お巡りさんを侮辱した罪で朝までに留置所へ入らなければならないアイゼンシュタインも、刑務所を留守にしていたフランクも、大慌てで帰っていきます。二人は当然刑務所で出会うことになります。さて、いかがになりますか。ここで酔いがさめるまで少しお休みをいただきましょう【休憩20分】。

シュトラウスの名曲をどうぞ

さあ、華々しくポルカで第2部の幕が開きます【雷鳴と稲妻】。そして、いまもっとも人気のソプラノ歌手飯田実千代さんにも歌っていただきましょう【春の声】。そして、ヨハン・シュトラウスといえばこの歌です。愛環音楽連盟の合唱団が歌います【美しく青きドナウ】。刑務所の中には色々な人がいます。惚れ薬を飲んで恋人を待っている若者ネモリーノもいます。小山陽二郎さんの美しいベルカントをお聴き下さい【人知れぬ涙】。囚人たちをなぐさめるために、心優しき愛環音楽連盟のオーケストラは、優雅なワルツを演奏して聞かせます【皇帝円舞曲】。

大団円

刑務所へ戻ってきたフランクが酔いをさましているとき、アデーレ姉妹が現われて、「舞踏会で約束したようにパトロンになって」とフランクに頼みます。「なってもいいが、才能はあるのかい？」と訊くので、アデーレは得意の歌を歌います。演技派の長屋恵さんの「私が田舎娘を演じると…」をお聞き下さい【アデーレのクーブレ】。そこへアイゼンシュタインが「判決通りやってきた」と入ってくるので、二人は留置所へ隠れます。ロザリンデも、「主人に会わせて」とやってきます。アイゼンシュタインの身代わりに留置所に入っていたのがロザリンデの昔の恋人アルフレードです。テノール歌手のアルフレードとロザリンデが「ばかな夫をだまして二人で会っている」とアイゼンシュタインの前で得意そうに言うのでアイゼンシュタインは怒りだします。そこへ、侯爵とファルケの一行がぞくぞくと現われて、「シャンパンで仲直りをしよう」とまだ酔いがさめていません。またまた刑務所で大宴会が始まります。すべてがファルケ博士の悪ふざけと分かり、ロザリンデとアイゼンシュタインも仲直りをします。「シャンパン！ シャンパン！」の大合唱のうちにめでたしめでたしで幕となります。

(都築正道)

ヨハン・シュトラウス2世の華麗な人生



ウィーンのホテルに着くと、どこからか“ウィンナ・ワルツ”が聞こえてきます。オペラ・ハウス前からケルトナー通りを行けば、辻音楽師がクラリネットで“ポルカ”。シュテファン寺院前の広場へたどり着けば、そこは“ウィンナ・ワルツ”でいっぱい。人々は“シュトラウス・メロディ”をハミングしながら、ウインドー・ショッピングです。市立公園に行けば、金色の“シュトラウス像”がヴァイオリンを奏でる姿で迎えてくれます。夜ともなれば、ワイン・ケラーでは、ツイターで「ウィーンの森の物語」。市立公園の広場では、オーケストラに合わせて、沢山の人が「美しく青きドナウ」を楽しそうに、嬉しそうにワルツしています。そう、ウィーンはヨハン・シュトラウスの都なのです。

ヨハン・シュトラウス2世は“ワルツの父”ヨハン・シュトラウス1世の長男として、1825年10月25日にウィーンのまま真ん中で生まれた、生粋のウィーンっ子です。“ワルツ”の創始者である父は、自分の楽団で自作を演奏して、ウィーン中の人気者でした。小さい時から音楽に才能を示したヨハン2世は、父の反対を押し切って、19歳で楽団を結成し、父の楽団との“ワルツ合戦”でウィーンを沸かせました。

ウィーン市民は、親子の贅沢な競演に酔いしれました。この頃、ウィーンにいたら、私たちは父ヨハン・息子ヨハンと、二つの舞踏場を、毎夜毎夜はしごして、生まれたばかりの素晴らしい新曲で、踊り明かしたことでしょ。

父の死後、二つの楽団を合併したヨハンは、ウィーンの人気を独り占めにし、ウィーン第一の楽団の指揮者・作曲家として、次々と新曲を発表し、その名声を高めて行きます。彼はウィーンの大衆のために曲を書き、ウィーン市民は彼の曲を楽しみ踊り、生活の糧としたのです。彼の“ワルツ”と“ポルカ”は、ウィーン市民の必需品となりました。

1864年、当時パリでオペレッタを創作して、全世界をオペレッタで熱狂の渦に巻き込んでいたオッフェンバックが、ウィーンへ乗り込んできま

した。そしてなんとオッフェンバックは「夕刊」という“ワルツ”を書き、ヨハンに挑戦。ヨハンは「朝刊」を書いて、演奏会で両方を演奏し、市民の判定を受けました。オペレッタ王でもワルツ王には勝てません。軍配は勿論、ヨハンに拵がりました。しかし、オッフェンバックの勧めで、ヨハンはオペレッタを書くことになります。デビューから、この1864年までの20年間に、300曲以上の舞曲をヨハンは作曲しましたが、それらの曲は父の形式と手法を変化させたものでした。舞曲の発展と革新を目指していた彼は、1867年の「美しく青きドナウ」に至って素晴らしい手法を発見しました。それは、今までと違い、メロディを主に、ワルツのリズムを従とした構成で、「ウィーンの森の物語」を始めとして、踊るだけでなく、鑑賞に値する芸術的な曲が次々に生まれ、世界に広まります。そして、現在も私たちに、生きる喜びと楽しみを与えてくれます。

ヨハンは心からウィーンを愛していました。当時オーストリアは、フランスとの戦いに破れ、やっと立ち直ろうとしていました。そのウィーン市民が心から愛している「ドナウ川」の豊かな流れを題材に、心から楽しめる曲を書きました。人々に陽気と元気が戻ってきて、楽しく踊り始めたのです。ウィーンの国歌ともいわれる「美しく青きドナウ」は、かけがえのないウィーン人の心の名曲なのです。

1870年、彼は弟エドゥアルトに舞踏会指揮者の地位を譲り、かねてから懸案のオペレッタの作曲にかかります。最初の「インディゴと40人の盗賊」は大受けで、次の「ローマの謝肉祭」も大成功。ヨハンはオペレッタ作曲家としても、世界中に名を知られるようになります。

1873年、ウィーンは大恐慌に襲われますが、彼は名作「こうもり」で人々の心を大いに慰めました。ヨハンはウィーン市民、いや世界の人々に大いなる慰めを与える輝く星となったのです。1890年、ヨーロッパの「一番の人気者」は誰かという人気投票で、ヨハンはヴィクトリア女王・ビスマルク公に次いで第3位となりました。

1894年のヨハン70歳の祝賀式には、全世界から贈り物・祝電が殺到しました。ついに世界的な人気者になったのです。

1899年、ヨハンはこの世を去りましたが、あの「美しく青きドナウ」がウィーンのを永遠に流れ続けているように、彼の作曲した音楽もまた、永遠に愛され続けているのです。

ヨハンはこう言いました。

「美しいオーストリアとウィーンを、私は褒めそやしたい。ウィーンが私に曲を書かせてくれたのです。ウィーンに感謝しています。ウィーンが花咲き、永遠に繁栄しますように」

(都築和子)

市長と歌おう

ふるさとの歌を



ふるさと

岡野貞一作曲
作詞不詳

一 うさぎ追いし かの山
小ブナ釣りし かの川
夢はいまも めぐりて
忘れがたき ふるさと

二 いかにいます 父母
つつがなしや 友がき
雨に風に つけても
思いいずる ふるさと

三 ころごしを果たして
いつの日にか帰らん
山は青き ふるさと
水は清き ふるさと

至高の一時を飾る一杯

シャンパーニュ・ポメリー



輸入発売元 メルシャン株式会社

お酒は20歳を過ぎてから